

〔科目名〕 地域社会論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 佐々木 てる	〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:授業開始時に指示	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。</p> <p>青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 300 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。</p> <p>本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。</p> <p>こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するとき役に立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできようになるだろう。</p> <p>扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>最終目標:地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭りやイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかにも、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。</p> <p>中間目標:身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。</p> <p>また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。</p>		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 下記の本を参照することが望ましい。 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016年 河合清子 2010『ねぶた祭 ——“ねぶたバカ”たちの祭典』角川書店		
〔前提科目〕 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で評価で行う。また中間時に小テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。 ・コメント用紙は一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。 ・また 30 分以上の遅刻は欠席とする。なお欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている。 ・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 ・授業に関して遅刻してくるもの、興味が無いもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。 	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。 <p>A～F の評価は本学の規定に準ずる。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>第一回目の授業時に成績評価の方法、講義の進め方、内容、注意事項、変更点について説明する。そのため、受講予定者はもちろんのこと、受講を考えている学生も必ず出席すること。</p> <p>前期講義に関しては、特に青森県、青森市のまつりをテーマとし、具体的な日常生活と関連したものを扱う。こういった日常の話題を自分の出身地の文化・風習や、日常生活に結びつけて考えること、すなわち比較できる能力を求めている。また事例を別の事例に応用して、文化発信、ビジネスチャンスなどに結びつけられるか常に考える力が必要といえる。本講義では受動的に、教科書的なことを学ぶのではなく、自らの想像力と発想力をより豊かにするという考えで授業の取り組んでほしい。</p> <p>なお担当者の専門領域は「社会学」であり、社会学的な視点を理解する力も求められる。そのうえで、経営、経済学との違いを理解し、応用できるよう自らの力で考える姿勢を求める。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域と向き合う</p> <p>内 容: ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 青森文化を考える視点: グローカル文化を考える</p> <p>内 容: 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識①</p> <p>内 容: 基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 祭りとは何か: 基本知識②</p> <p>内 容: 現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼①</p> <p>内 容: 都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。比較社会学的な視点を重視し、他の祭礼との比較も考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼②</p> <p>内 容: 青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日常文化と祭礼③</p> <p>内 容: 前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ、小テスト。</p> <p>内 容: 前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動①: 地域ねぶたを考える</p> <p>内 容: ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。これらの日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動②: ホテル経営と飲食店</p> <p>内 容: ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していくことの2回目として、客をもてなす、受け入れることについて考える。特に青森市新町のホテルや飲食店などの活動について紹介する。 教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の活動③: ねぶた祭を支える人々</p> <p>内 容: 地域活動を考える第三回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設①: ねぶた師という仕事</p> <p>内 容: この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設②: 囃子</p> <p>内 容: 前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は囃子に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているかを考える。 教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設③: 文化の外部化</p> <p>内 容: 地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には首都圏で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、青森との比較を行う。これによって「祭」の文化としての役割を考える。 教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の未来にむけて。</p> <p>内 容: 講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書</p>
試験	